

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻 博士後期課程 2年 安田健二

平成 26 年度アジア地震学会 (ASC) 渡航助成金をいただき、2014 年 11 月 17 日から 20 日にかけてフィリピンのマニラで開催された Asian Seismological Commission(ASC)においてポスター発表を行ってきました。その成果を報告させていただきます。

ASC は、マニラのマカティ市の Dusit Thani Hotel で開催されました。高級なホテルで行われる学会の参加は初めてで、休憩のたびに軽食や昼食が会場にて振る舞われることに驚きました。マカティ市は、高速鉄道や巨大モールがあり他のエリアと比べて高級なホテルが多いことからマニラの経済の中心であると感じました。また、マニラの中でも治安がよく昼間外を歩く分には日本と同じくらいの安全性がありましたが、夜 6 時以降はすでに外は暗くなり、メインの通り以外は電灯も無く治安面で不安になることも若干ありました。しかし、宿泊したホテルから会場までが徒歩 3 分ほどと好立地であったため比較的安全に過ごすことができました。

学会では、初日に Opening Ceremony があり、その後続けて招待講演の発表がありました。ここでは、Shu-Kun Hsu 氏や Solidum 氏の発表があり、マニラ海溝における地震の特徴やフィリピンにおける GPS 観測からどのような応力場が考えられるかなどの発表がありました。招待講演が終わってから、それぞれのセッションに分かれての発表となりました。口頭発表は二つの会場に分かれての発表となり、ポスター発表は口頭発表と平行して行われ、初日と二日目の 15:00 からの発表となりました。本学会では、フィリピンやインド-ネパールの境界近傍における巨大地震についての発表や 2011 年の東北地方太平洋沖地震についての発表が目立ったように感じました。特に、Mario 氏によるフィリピンにおける地震活動を 3D の seismic profile によって観測された結果から北 Bohol 断層がより延長していることを示唆していた発表や、Nagao 氏による M7 クラスの地震に対して RTM アルゴリズムを用いて地震の前兆現象を見つける試みなどの研究発表を興味深く聞くことができました。企業ブースでは、加速度計と GNSS が一体になったような機器の説明を受けました。また、フィリピンにおける地震防災についての取り組みの紹介も企業ブース内にあり、日本同様地震や津波が懸念されている地域であることから、学校における避難訓練の実施などの教育面における取り組みが目立ちました。この展示から地震

防災においては、教育が重要であると改めて感じました。

ASC における私の発表は、「Earth Structure, Geodynamics and Seismotectonics」セッションにおいて「Monitoring of seafloor crustal deformation along the Nankai Trough, Japan」というタイトルで行いました。口頭発表と時間がかぶっていたため、多くの人と話すことはできませんでしたが、前日に口頭発表において海底地殻変動の発表が行われたため、わざわざ口頭発表を抜け出して話を聞きにきてくれる人もおり、アジア（特にフィリピン）において海底地殻変動観測は興味深い分野であることを改めて感じました。特に我々が設置している場所の深さで観測を行っているのか、また現システムはどこまでの水深まで対応しているのかなどの観測システムについての質問が多く、アジアの他の地域においても海底地殻変動観測の実施を考えているということが感じられました。コスト面などの問題もあるが、将来マニラ海溝近傍の地殻変動から津波の有無が海底地殻変動から理解されることが期待されました。また、今後も研究に邁進し様々な場所で発表をする機会を作っていきたいと思えます。

最後になりましたが、地震学会の海外渡航旅費を助成していただき、ASCに参加させていただく貴重な機会を与えていただきまして、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

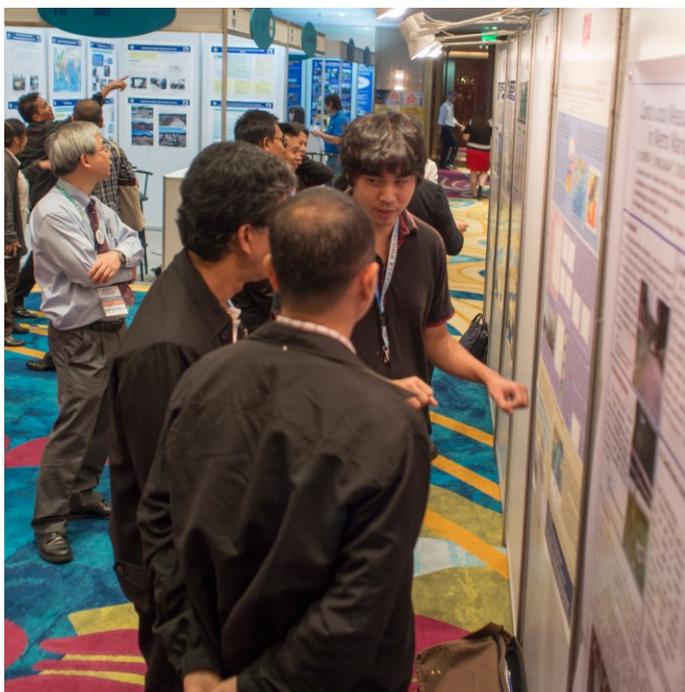


写真 ポスター発表の様子